

平成 27 年度 発達障害の可能性のある児童生徒等に対する早期・継続支援事業  
 (発達障害早期支援研究事業)  
 成果報告書 (概要版)

実施機関名 ( 大阪狭山市教育委員会 )

1. テーマ

発達障がいのある子供に配慮した 授業づくり・集団づくり  
 MIM指導の活用によるつまずきの早期発見と、どの子も理解しやすい指導方法の工夫

2. 問題意識・提案背景

平成 26 年度から、市内全小学校の 1 年生で MIM 指導及び MIM-PM を実施し、「文部科学省チェックリスト」等も用いながら、発達障がいを含む特別な教育的ニーズのある子供たちの早期発見と早期支援をめざして取り組んでいる。そして、全小学校に通級指導教室を設置し、通常の学級と連携しながら個別指導體制の充実を図っている。また、先進地の視察や専門家の継続的な指導、研修の充実などにより、教員の意識が高まってきているところである。

一方、各学校からは、「担任の指導力や取組みに対する意識の差をどうするか」「早期発見を、教科の指導にどうつなぐか」「通級指導教室での指導方法を通常学級で活かさないか」等の課題が報告されている。

市としては、各学校が「系統性・一貫性のある指導」「学習環境や授業展開の整備」に取り組み、得られた成果が市全体のものになるようなスタンダードの構築をめざして、受託機関相互の交流を深め、事業後も継続できるようにすることが大切であると考えている。

3. 指定校について (平成 28 年 1 月 1 日現在)

指定校名：大阪狭山市立小学校 (全 7 校)												
	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数	児童数	学級数
通常の学級	519	17	533	18	541	18	540	19	527	17	503	16
特別支援学級	8		14		12		13		7		18	
通級による指導の対象者数	26		27		30		19		28		20	
	校長	教頭	教諭	養護教諭	講師	ALT	事務職員	特別支援教員	スクールカウンセラー スクールソーシャルワーカー	その他 首席	計	
教職員数	7	7	139	7	18		8	17	4		8	211

#### 4. 指定校における取組概要

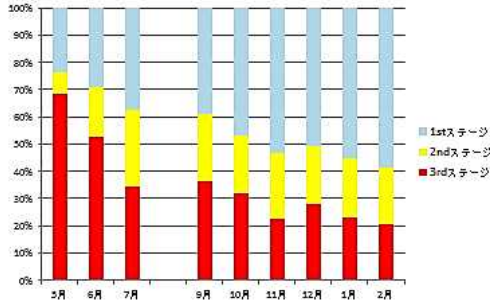
- (1) 目的・目標  
発達障がいのある子供に配慮した授業づくり・集団づくり  
～MIM 指導の活用によるつまずきの早期発見と、どの子も理解しやすい指導方法の工夫～
- (2) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒の明確化  
ア. MIM 指導を活用し、MIM-PM の分析で集団や子供一人ひとりの伸びを把握  
イ. 2 種類のチェックシート（「文部科学省チェックリスト」「2012 小野先生らによるチェックリスト」）の活用  
ウ. 配慮を要する子供についての共通理解を図るケース会議  
エ. 就学前の発達の状況についての理解を深める幼小連携
- (3) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容  
ア. 授業（一斉指導）における指導方法の工夫内容  
・学校としてのスタンダードの構築  
教室環境・学習や生活のきまり等学校として統一し、一貫性のある指導を実施  
どの子もわかる授業づくりの工夫（話し方・指示や声かけ・板書やノート）  
イ. 放課後補充指導等の個別の指導における指導方法の工夫内容  
・すべての学校で通級指導教室又は個別指導教室（発達障がい支援アドバイザー3 人を活用）を設置し、全ての学校で早期支援を実施  
・学識経験者や専門家の助言、先進地視察によって学んだ指導方法の導入
- (4) 学習面や行動面で何らかの困難を示す児童生徒に対する支援内容の妥当性の評価手法  
ア. MIM-PM の 3 ステージの児童数の推移と学級訪問（授業参観）  
イ. 本市教育指針に基づくふり返り（毎年実施）の中に項目として位置付け、教員が自己評価できるアンケートを実施  
ウ. 事業検討会や実践交流会での各学校の担当者による報告に対する専門家の評価

#### 5. 主な成果

- (1) MIM 指導を活用した取組  
ア. MIM-PM とチェックリストでつまずきを把握し、通級指導教室で課題を克服する指導につながぐことで、一人ひとりの子供の早期支援を実現できるようになった。  
イ. 学識経験者を交えた研修会等で教員の指導力が高まり、特化した指導を行う対象児童の明確化につながった。  
ウ. 小学校教員が「MIM 指導につながる言葉の学習」を幼稚園で行い連携を深めた。



## 大阪狭山市MIM7校(2015年度)5月～2月



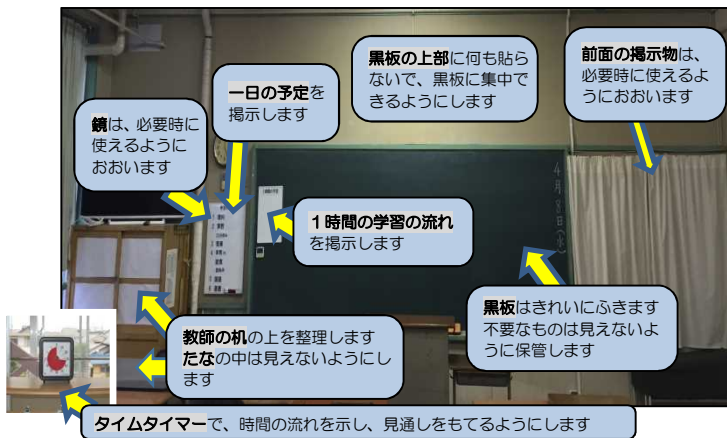
全体の割合	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
1stステージ	78.3	52.0	34.4	36.3	31.3	22.6	28.2	22.9	20.5
2ndステージ	21.7	18.3	28.2	25.1	21.1	24.2	21.1	21.9	21.1
3rdステージ	0.0	29.7	37.4	38.7	48.5	53.2	50.7	55.2	58.6



### (2) 授業づくりと学習環境づくり

ア. 学校としてのスタンダードを構築し、みんなで理解し、みんなで育てる体制づくりが推進できた。

イ. 集中できる教室環境、ルール、指示や声かけ、板書やノートなどの指導において工夫改善に取り組み、先進地の視察研修と報告会、学校間の情報交流を通して、市全体の基礎的環境整備が進んだ。



### さやまの支援教育

～一人ひとりのニーズに応じた教育をめざして～

支援教育とは・・・

すべての子どもが学校の生活の中で自分らしさを発揮し、成長できるように、一人ひとりの教育的ニーズを把握し、適切な指導や支援を学校全体で行う教育のことです。大阪狭山市の全ての学校において、取組みを推進しています。

個別指導の取組の進め方

～指導者選考実施が進行されます～

- 1. ノーマライゼーションの理念に基づき、これまでの支援教育の取組みを継承・発展させ、すべての障がいのある子どもの社会参加と自立をめざす指導の強化を図ります。
- 2. 支援教育コーディネーターを中心に、全教職員による校内支援体制を充実させるとともに、互いに認め合える集団づくりを促進します。また、一人ひとりの障がいの状況や保護者の職・学・生活に配慮した上で、「個別の指導計画」を作成し、合理的配慮によるきめ細かな指導に努めます。
- 3. 児童のユニバーサルデザイン化を積極的に推進し、基礎的学習環境を充実することで、すべての児童生徒がわかる喜びを実感できる授業づくりを推進します。
- 4. 子どもネットワーク協議会をはじめとした関係機関との連携を通じて、乳幼児期からの継続的な相談・支援体制の充実を図るとともに、就学にあたっては、様々な教育的ニーズに応える働きをし、教育委員会および保健・医療・福祉・労働等の関係機関との連携の強化に努めます。

大阪狭山市教育委員会  
平成28年4月

※別添リーフレット  
市内保幼小中学校の教職員に配付

### (3) すべての学校で通級指導教室を実施

ア. 発達障がい支援アドバイザー3名を活用し、全ての学校で個別指導を行った。個別指導の充実を図ることが、子供の「わかる・できる」喜びにつながり、保護者の理解も深めることができた。

イ. 通級指導を受ける子供の学年が低くなってきており、早期発見と早期支援の成果であると考えている。



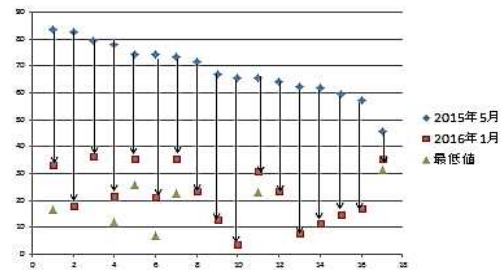
## 6. 今後の課題と対応

### (1) 取組を通して明らかになった課題と対応

ア. MIM 指導における伸びに学級間の差が見られる。(右グラフ)

大きく伸びた学級では日常的に短時間の MIM 指導を継続していることをふまえ、MIM-PM の 3rd ステージの児童数が、1 年生終了時に全学級で、30%以下を目標に取り組み。

学級内の3rdステージの割合の変化



それぞれの矢印は、一つのクラスの結果を表している。  
(2016年1月が最低値ではなかった場合、2016年11月あるいは12月の最低値を▲で表した)

イ. 通級指導教室の連携

小学校における通級指導教室での指導は、教員だけでなく保護者からも評価され、ニーズが高まっている。この指導を中学校の通級指導教室につなぐことが課題である。指導方法について、通級指導担当部会で検討を深め、発達段階に応じた指導のあり方を研究する。

ウ. 一斉指導における指導方法の工夫

支援を要する児童に対して、すべての教員が適切な配慮ができるようにすることが課題である。どの子も授業で集中を持続して課題に取り組めるように、今年度作成したリーフレットを参考に、「集中トレーニング」「短いスパンの学習活動の組立て」「気持ちの切り替えができる活動」等を工夫し、市内の全学校で実施できるよう、専門性の高い教員を中心とするネットワークの構築を図る。

※大阪狭山市では、「障害」を「障がい」と表記している。

## 7. 問い合わせ先

組織名：

- (1) 担当部署 教育部 学校教育グループ
- (2) 所在地 大阪府大阪狭山市狭山一丁目 2384 番地の 1
- (3) 電話番号 072-366-0011 (内線 811)
- (4) FAX 番号 072-367-6011
- (5) メールアドレス gakkou@city.osakasayama.osaka.jp